

新病院への期待：患者さんのみならず、職員にも選ばれる病院へ

独立行政法人 労働者健康安全機構 旭労災病院

病院長 木村 玄次郎

地域の皆様方の御支援の賜物で、新病院建設が始まりました。これまでの病院は、近づいても建物の姿が見え難い欠点がありました。しかし、新病院では工事が始まると直後から賑やかで、遠くからでも新病院を見て取ることができ、近隣の住民の皆様からの期待が高まっています。ただ、工事中は騒音が響き、駐車場が不足で御迷惑とご不便をお掛けすることになり申し訳なく存じます。

新病院では念願の集中治療室 (ICU) を設置する予定です。重症患者さんを手厚く治療するばかりか、救急搬送患者さんや術後患者さん、それにカテーテル治療後の患者さんなどを ICU に収容すれば、安全性が向上し病院機能が飛躍的に高まります。ICU が可動し、その他の周辺条件を整えば、更に高い病院の格である地域医療支援病院を目指し、公的病院として地域の病院や開業医の先生方とより密な連携を構築し、地域全体の医療レベルを高めて行くことができると考えています。

昨年、3 回目となる日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し高得点で合格しました。医療安全や感染対策のみならず、インフォームドコンセント (患者さんからの同意) のいただき方などについても時代と共に進歩・変化する新しい考え方へとバージョンアップできたことは、有意義であったと確信しています。特に、“人生の最終段階における医療”の決定プロセスに関するガイドラインについては、時代と共に変貌して行くものと感じました。生前に自分の終末期のあり方を決定しておく“living will”と云う考え方も芽生えています。このように医療のあり方は、今後大きく変化する予感があります。

さて、この病院機能評価受審という一大イベントを通して、旭労災病院の職員のレベルの高さと団結力の強さを再確認することができ喜んでいきます。当院の大きな特徴は、57年を超える歴史があり、古いけれども大事に磨き込んで使われ輝いていることです。病院まつりでも感じていただいたように、温か味に溢れ、「看護師さんは親切で、医師も丁寧に分かりやすく説明してくれる」とのお褒めの言葉をいただいています。これまで職員には、ややもすると何となく”古くて小さい”病院との意識がありました。実際には、我々の病院に一步でも足を踏み入れ隅々まで観察していただくと、古いけれども大事に磨き込んで使われ、輝いている姿に驚かれるはずで、職員一丸となり、歴史と共に価値を高めるべく日々励んでおります。2019 年春には新病院をオープンすべく現在、鋭意準備中で

す。建設が進む中、病院周辺の整備については、市民の皆様の御意見を集約して、尾張旭市が責任を持って速やかに決定していただきたいと思います。長期的には、病院に隣接する市の遊休地を災害時の避難場所とし、我々の病院が災害拠点病院的な役割を果たせる計画が重要ではないかと考えます。病児保育施設も病院と連結する形で設置できれば市の大きな財産になります。病院周辺のアクセス整備も将来に渉る重要な課題と考えます。病院は社会や市民生活にとって最も重要な基本的インフラであり、病院建設は市を活性化させる起爆剤でもあるため、“街起こし”に直結しています。是非、このタイミングを逃すことなく市民の皆様と一緒に議論を高め具体的化していただければと期待する。幸い、来年(2019年)5月には、尾張旭市の森林公園にて全国植樹祭が天皇・皇后両陛下をお迎えして盛大に開催されます。丁度、新病院のグランド・オープンとほぼ同時期です。尾張旭市や名古屋市守山区は、人口が未だ増加している全国でも珍しい地域です。是非、この地域と新病院が揃って発展することを期待します。

地域に密着しながら、世界を見据え社会に貢献することこそ独立行政法人としての使命です。今後共、地域密着型の旭労災病院に対して地域の皆様から暖かい御支援をいただきますよう本年もどうか宜しくお願い申し上げます。